

桜蔭俳話会 九月句会 (第三三八回)

平成二十七年九月二十七日(日)

会場 旭区民文化センター(サンハート)

1点 立札のはきだめ菊へかがまりぬ 弘子

1点 垂れる枝の檸檬に頭打たれけり 友子

1点 笑栗立ち入り禁止のテーブルゆれ ツル子

1点 コスモスやくの字のまま咲きをりぬ

ツル子

1点 松林風吹き渡る秋の声 眞壽

3点②天高しがんばれさうな一万歩 弘子

3点①一人居の家の暗さや月の村 明美

3点 曼珠沙華かの世満席かもしれぬ 才美

3点 下流老人増えてみて敬老日 明美

3点 航跡の傷はいつとき秋の海 守

2点②豊の秋向かひの席の拒食症 守

2点①山葡萄峠越えれば日本海 守

2点 よく跳ねる水切り石や鱗雲 友子

2点 車座の真中にどんと濁り酒 ヤエ子

2点 からすうり藪の物音消しにけり 弘子

2点 一人居の良夜西窓東窓 才美

2点 秋深し友の病を聞けぬまま 眞壽

1点①コスモスや膝のリズムが米を磨ぐ 才美

1点 猫じゃらし小さき庭に犬二匹 邦子

1点 茹で栗のすつぼり剥けし青き空 ヤエ子

1点 曼珠沙華湖の匂ひの待避線 守

1点 縄張りを争ひながら木の実落つ 才美

1点 立札のはきだめ菊へかがまりぬ 弘子

1点 垂れる枝の檸檬に頭打たれけり 友子

1点 笑栗立ち入り禁止のテーブルゆれ ツル子

1点 コスモスやくの字のまま咲きをりぬ

ツル子

1点 松林風吹き渡る秋の声 眞壽

※

茹で栗の食べ始めたら終りなし ヤエ子

満月やはたとハッカー潜入す 明美

廻り道金木犀の下通る ツル子

鹿の眼の先の屹立潮鳥居 守

いわし雲洗濯物を乾かせり 弘子

ふる里の育てし水や稲穂波 才美

秋の虹水害の田の広がりぬ 友子

雑誌読む陽は強けれど風は秋 邦子

燕帰る銀箔の沖小津波 明美

虫の声暫し聞きとめ星月夜 邦子

木犀の匂ひ初めしも昔事 弘子

小流れの水引草の

パレットへ朱色を足すや星月夜 ヤエ子

踊りの輪若かりし頃思いつつ 邦子

爽やかにすすんで育児若きパパ 友子

秋雨の水に浮く家やがて消ゆ 明美

真弓の実華やぐ向かふの富士の山 ヤエ子

新蕎麦ののぼりに惹かれ雨宿り 友子

肌寒し苔に雨降る古利かな 眞壽

棚の下大汗かいて葡萄狩 眞壽

照明を下から点ける秋の暮 眞壽

(不在投句 古野明美、京林眞壽)

「事務局からお知らせ」

○十月句会

・日時 十月三十一日(土) 午後一時から。

・場所 旭区民文化センター(サンハート)

○十一月句会

・日時 十一月十五日(日) 午後一時から。

・場所 旭区民文化センター(サンハート)

○十二月句会

・日時 十二月二十日(日) 午後一時から。

・場所 旭区民文化センター(サンハート)